

九州石油(株)大分製油所 漏えい事故 (第2報)

平成 17 年 2 月 21 日
21 時 00 分
消防庁特殊災害室

1 発生日時等

平成 17 年 2 月 19 日 (土) 15:25 (大分市消防局覚知)
18:50 (消防庁覚知)

2 発生場所

大分市大字一の洲 1 番地 1
九州石油(株)大分製油所 (レイアウト事業所)

3 事故概要

製油所内の浮き屋根式タンク (容量: 25,000k1、油種: 主に灯軽油のスロップ (再精製前の状態のもの)) 浮き屋根上に油が漏えいしているのを事業所が発見。 (発災時残量 15,400k1)

ルーフドレインパイプ (浮き屋根上にたまった水を排出するパイプ) が詰まっていたため、数日前に降った雨が排出されず、何らかの原因により、油が混ざった模様。

現在浮き屋根は沈んだ状態である。

4 対応状況

消防庁 覚知後情報収集開始し、泡消火薬剤の調達及び警戒体制の確保を指示

大分市消防局 車両 6 台 13 名
自衛防災組織 調査中

泡で油を覆う作業を行うと共に、隣のタンクに移送する作業を行っている。警戒体制を取っており、泡を切らさないようにしている。また、泡については、現在のところ必要量は確保されている。

浮き屋根が着底するときの悪影響をさけるため、下部から水を入れ、ルーフドレインから油分を抜き (毎時 150k1)、油面高を一定に保っている。

水への置換が終わるのは、24 日になる見込み (20 日 20 時現在残油量 9,307k1)。

5 被害状況

調査中